

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表			
事業所名	てらびあぼけつと神戸元町教室		
公表日	令和7年	3月	20日
利用児童数	33人	回収数	30

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	1			のびのびと活動することが出来ている。	個室と大部屋の使い分けをし、常に棚や玩具の配置に配慮する。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	28	2			問題ないと思う。毎回しっかり見てもらっていると感じる。	決められた配置数はクリアしているが、保護者には伝わりにくいようなので、周知方法を今後検討。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28	1	1		トイレが少し狭い。洗面の補助台が低いのでもう少し高いものも準備してもらいたい。	補助台に関しては、高さ調整できるものを購入。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30				いつきれいにされている。玄関が少し狭く感じるが、見守って配慮してくれている。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29			1	子どものことを十分理解した上で保護者の要望を聞いてくれる。	今年度から実施している専門的支援で行っている内容をさらに詳しく説明していく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29	1			合っていると思う。プログラムの内容も詳しく説明してもらっている。	公表している内容を閲覧していない保護者も多いので、まずは見てもらってから実際の支援と照らし合わせて説明する。
	7 こどものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	30				子どもに対して気付けていなかった事も色々取り入れてきて、よく見てくれていると思った。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30				課題があるところを重点的に取り組めるように考えられている。項目ごとに詳しく説明がある。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	30				どのような支援をしたか、きちんとフィードバックを受けているので大変満足している。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30				毎回新鮮です。毎回目新しい工夫がされている。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	22	3	3	2	日中は登園しているので必要性は感じていない。	事業所での交流は現状難しいことを契約時に説明する。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30				丁寧に説明があり、安心して利用できています。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30				毎回、丁寧に説明してもらっている。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	27	2	2	1	ハサミ、箸などの練習方法を聞き、お陰様で上手になった。	毎利用時に行っているがそれが「家族支援プログラム」だと認識されていないことが分かったので再度お知らせする。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	30				毎回フィードバックをしてもらい、その日の様子がよく分かる。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	1			利用ごとに、その日の様子と一緒に助言もしてもらっている。	質問や相談がしやすいように、こちらからのアプローチも増やしていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	1			とてもよく見てくれており、親身になって話を聞いてもらっている。	今後も寄り添った支援を続けていく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	22	3	3	2	交流の場があれば嬉しいと思う。あればいいと思うが、参加できるかは分からない。	年長児の就学に合わせて今後の流れを話すと共に、放課後デイへの移行の話や情報交換出来る場を提供する。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	29	1			定期的に説明等がある。園との連絡など丁寧に目をかけてもらっていると感じる。	相談を随時受け付けているという旨を定期的に お知らせする。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	1			連絡帳に記載したり、直接話したりLINEでやりとりしている。	漏れがないように徹底していく。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	29	1			毎月のお便りを楽しく拝見している。SNSの更新が多いので、よく見ている。	発信についてのお知らせを分かりやすく提示する。
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	29	1			気になったことはないので、されていると思う。	年に1度の研修を引き続き実施し、全職員が常に意識を高めていく。	

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	27	1	1	1	マニュアルを置いてある場所を教えでもらっている。入口にあるので目に留まりやすい。	掲示してあるマニュアル等に、更に目が行く工夫をする。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	1	1	1	訓練での様子を教えてくれる。帰宅後に子どもからよく感想を聞く。	現状の報告と共に訓練等の年間スケジュールを保護者とも共有する。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	1		1	エレベーターのロックなど。常に危険がないかの配慮はしてくれていると思う。	事業所で作成している安全計画を紹介する。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	1		1	契約時に一通りの説明は受けている。	契約時だけでなく、年に1度お知らせと共に説明をする。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	30				園には行き渋りがあっても、てらびあには行きたがる。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	29	1			いつも楽しく通っている。毎回楽しく通所しているので安心している。	「できた」の経験を積み重ねていけるプログラム内容を考案する。
	29	事業所の支援に満足していますか。	30				様々な相談に乗ってもらっているのでありがたい。大変満足している。	

事業所における自己評価結果

公表		事業所における自己評価結果				
事業所名		てらびあぽけっと神戸元町教室				
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		3つある個室とは別に、大部屋をパーティションで区切り、1部屋多く使用出来るようにしている。	広い空間を意識できるように物の配置など、常に子供の安全を考えたスペース作りに配慮する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		配置基準にあった人員を配置している。職員の急な体調不良での欠員にも対応出来る人数を考慮している。	急な重なる欠員の際には同法人内の事業所間で上手く連携していく必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		ドアノブの位置変更や段差の除去、物の配置にも配慮している。部屋に子どもたちのなじみのある名前をつけて分かりやすくしている。	はじめの会で使用した椅子や玩具棚に上ってしまわないよう、常に見守りが必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		クール毎の換気や消毒など、細目を実施している。明るい空間になるような配色にもこだわっている。	個室に窓がない部屋もあるので、圧迫感が出ないように机等の配置を考える。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		子どもの状況に応じて安全に個室を利用できるようにしている。	急遽クールダウンに使用する際には室内の物を外に移動させるなど職員間での連携が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		ミーティングの月間目標の設定・共有と振り返りを行い、業務改善の場を設けている。	全職員が達成を目指して行動出来るような内容の目標を設定していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価表で保護者のニーズを聞き取り、職員間で共有して改善に努めている。	会話のなかで保護者の意向を汲み取る機会を逃さずに対応し、小さなことでも改善の余地はないか検討する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日の朝終礼での意見交換の他に定期的に面談を行い、意見を取り入れ業務改善に繋がるよう努めている。	意見に対して進捗状況を記載し、結果を知れるようにしておく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		本部SVによる監査を実施し、評価・改善策の提案をしてもらっている。市の巡回指導でも様々な案を頂き実践している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修はもちろんのこと、社内勉強会を定期的に行い、質と知識の向上に努めている。	内容については、都度必要なものをどんどん提案して実施していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		てらびあで実際に実施するプログラムに沿った分かりやすい内容になっている。	全職員が公表されている内容を知り、質問されたさいに返答できるようにしておく必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		まずは子どもと保護者の思いに寄り添って受け入れた上で、現状の療育で何が必要かを提案し検討している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		保護者とのアセスメント後、全職員でカンファレンスを行い、それに基づいて支援計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		作成後に共有するのは別に、利用時ごとに振り返るようにファイリングし、それを基にその日のプログラムを作成している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		行動記録シートや強化子サンプリングを使用するとともに、毎日1人1人の様子を記録し月ごとに全職員で見直している。	子どもの観察、見守りをする上で、課題を見つけるには勿論だが、成長も沢山見つけて記録、共有していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		家族支援、移行支援については、直接支援以外での対応も取り入れて、家族全員に寄り添えるような支援内容を考慮している。	関係機関、事業所間との連携を更に増やしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		プログラム終了後に必ず共有し、次回以降の案を出し合う時間を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎回担当職員を変更し、色々な視点を持ってプログラムを作成出来ている。同じ1つの目的であっても違った内容でアプローチしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		必要に応じて個別療育と異・同年齢での社会性の課題に取り組む時間を設けている。	園に行っているから必要ないと考えておられる保護者にも、てらびあでしか取り組めない関わりや支援内容を説明して機会を増やしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼時に申し送りと共に1日の担当や時間配分、注意点等を細部まで共有している。	午後勤務の職員にも怠らずに引継ぎや報告を行うために分かりやすいチェックシートを用いる。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		その日の利用児1人1人の報告、振り返りをしてそれぞれが次の支援に活かせるような話し合いが出来ている。	休みだった職員も同じ情報を取得するよう、日報だけではなく個別ファイルの確認も徹底していく。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		プログラム毎にデータを記録し、まとめているので検証がしやすくなっている。改善点も見つけやすい。		
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		適切な時期にモニタリングを行うことによって、その時にあった目標になっているかを検討し達成していき少し難しかった場合に見直しが出来ている。		
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者及び児童発達支援管理責任者が参画している。		
25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		保護者とも相談の上、関係機関との連携を行っており、支援計画の作成や見直しに役立っている。		

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		訪問、来所をお互いに行うことによって違った姿や課題を新たに見つけることが出来ている。支援方法の相談にも乗れている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		これまで取り組んできたことや、今後も続けて行ってほしい支援などを分かりやすく就学シートとして作成、しお渡している。	今後は、小学校・支援学校だけでなく放課後デイサービスとのやり取りも増やしていく必要性を感じる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		家庭センターや発達支援事業所を訪れて、話し合いの場を持っている。そこで得た提案をもとに保護者対応や支援に活かしている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6			普段登園しているのでも必要性を感じていない保護者も多いが今後意見があれば検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		フィードバックで療育の内容を報告すると同時に、ご家庭や園での様子も伺っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		ご家庭でも行える、個々に合った内容のプログラムを動画にして視聴してもらっている。	こちらからお勧めするだけでなく、どんな動画があるのかを一覧表にして保護者に分かりやすく提示し要望を出してもらるようにする。
	保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時と法定時などの変更がある場合には説明している。
36		児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		子どもや保護者の気持ちに寄り添うことを忘れず、そのうえで必要な支援内容を考案している。	
37		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		作成後は毎回目標とそれに対する支援方法を1つずつ説明している。	
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		療育後のフィードバックで様子を伺い、悩みの相談などに随時対応している。	療育の内容だけでなく、家庭での困りごとに対応できる力を身につける必要がある。
39		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6			今後、保護者の意見を取り入れながら必要に応じて対応していく。
40		こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		すぐに答えられる時はその場で対応し、別途時間を設けたほうがよい場合は、面談を行っている。	管理者や児童発達支援管理責任者以外の職員も適切な助言や支援が出来るようにスキルアップを図る。
41		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月のおたよりに加え、Instagramやブログのアップ回数を増やし、沢山の方に見ていただくようになった。	SNSでのそれぞれの棲み分けを図り、更にその情報を必要とされている方の目に届くように改善していく。
42		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		年に1度事業所内で研修を行うことにより、常に意識を持って取り扱いができるようにしている。	SNSを利用するにあたって、常に慎重に行う必要があるため今後もダブルチェックを怠らないようにする。
43		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		視覚支援だけでなく、保護者や園と共有したハンドサインを取り入れることで習得も早く、意思の疎通も図りやすくなった。	
44		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			現状、地域住民との関りを持つ機会がない為、難しい。
45		事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		訓練の担当者を交代制にすることで、1人1人の意識が強くなっている。訓練後はおたよりに、SNSで様子を発信している。	防犯訓練を行った際に、構造上の問題点や考慮すべき点が見つかり勉強になったので、今後は対策を検討していく。
46		業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		実際に避難場所まで行くことによって、子どもたちと移動するにあたっての注意点を確認している。	最近道ではなく、その道が通れなかった時のことを踏まえて違うルートでの避難も経験しておく。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		てんかん発作がある児童に対して保護者から説明を受け、実施してほしい内容を書面で職員間共有し対応できるようにしている。	
非常時等の対応	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			当事業所で食事の提供はしていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		定期的に行う研修・訓練の他に全職員が市での救命訓練研修に参加するなど、常に安全な支援が出来るように意識を高めている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		説明とともに、目につきやすい場所に提示し、いつでも閲覧できるようにしている。	普段送迎に来られない家族にも伝わるよう、周知方法を他にも考えていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎日の終礼、毎月のミーティングで事実ごとに検討している。内容を日報に記載することで意識を留めやすい。	職員が誰も見ていない時に発生したということだけは起こらないように気を引き締める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		全職員が研修後に報告書を記入し、職員間で認識を高めている。	風通しの良い職場環境作りを今後も心掛けていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		現在、該当児童はいないが、今後必要な場合に備えて、適切な対応を研修時に周知している。	

## 事業所における自己評価総括表

公表	令和7年 3月 20日		
○事業所名	てらびあぼけっと神戸元町教室		
○保護者評価実施期間	R6年 3月 1日		R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	R6年 3月 1日		R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 28日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎利用時に保護者へのフィードバック、家族支援の実施。それによる保護者との信頼関係の構築とお子様の情報や保護者の困りごとの聞き取りが出来る。	基本のプログラム以外にも生活面での課題や保護者の希望にも寄り添った支援(食具の使用や身辺自立。他者との関りの場の設置)	保護者からより一層の理解を得るために、保護者向けの学びのサポートや職員側の分かりやすい言葉への変換力の向上。
2	お子様の課題に対し、個別で柔軟に多方面からアプローチして支援することが出来る。(ABA療育を軸にスモールステップで進めていく)	お子様が安心できる環境づくりについては常に配慮している。(棚や玩具の配置、トイレの内装、季節ごとの飾り、職員自ら明るい雰囲気作り)	支援の視野をより広げるために他事業所との意見交流を増やし、専門的な外部研修の受講する。
3	専門的支援で行っているリズムウォークでの集団行動・社会性の発達支援と共に、サーキットも取り入れ、全身機能やボディイメージの強化も図っている。	季節感や季節の行事を意識したイベントや制作などのプログラムの実施。(昔ながらの伝統や文化、日本で感じる季節の流れを体感すると共に、活動内容への理解を育てる)	サーキットをより発展させるために運動療育への知識向上。パターン化の充実化。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	質の高い療育を行い、満足度も高いが認知度が低い。	SNSを通して発信はしているが、近隣の方には知られていない。発信するためのツールが少ない。	既存の利用児が通っている園への訪問を増やしていく。 SNSを更に有効活用し、ターゲットを絞った発信をしていく。
2	保護者同士の交流する場がない。	場所の確保が難しい。基本が決められたレギュラー利用なので日程調整が難しい。	まずは就学に向けてなど、どの保護者も興味があるものからテーマを決めて実施し、どれくらいの希望者が集うのかを調査してみる。そこから定着を図る。
3	入口玄関が狭い。	ビルの構造上、変えることが出来ない。	玄関での利用児・保護者との対応時間の短縮。送迎の順番の配慮。 靴の脱ぎ場を明確化する。